

着用は思いやり 予防効果は限定的

マスクは、ウイルスを100%は遮断できないため、感染予防の効果は限定的だが、感染者がせきやくしゃみで周囲にウイルスをまき散らすのを防ぐことはできる。

布の種類によって、目の粗さや肌触りなどでマスクに向かないものもある。一般的には裏地などにガーゼを使うが、染料やのりがかぶれなどの原因になることもあり、注意したい。

衣料用洗剤で押し洗い

■手入れ方法

布のマスクはこまめに洗って清潔に保ちたい。花王（東京）が洗い方を同社サイト（<https://form.kao.com/jp/pub/open/eiseikagaku-t-heme08>）で紹介している。洗濯機ではなく、手で洗う。手順は以下の通りだ。

①衣料用洗剤を、使用量の目安に従って水に溶かし、マスクを10分ほど漬け置く。軽

「他人と一緒に」はダメ



布マスクの洗い方の解説動画（YouTubeの経産省チャンネルから）

く押し洗いしてよくすすぎ、水気を切る。

②水1リットルに塩素系漂白剤15

リ・リットルを溶かしてマスクを10分浸す。

③水道水でよくすすぐ。

④タオルに挟んで水分を取り、形を整えて干す。

同社によると、洗う際はいくつか注意点がある。まず、他の人のものと一緒に洗わず、

1枚ずつ洗う。炊事用手袋などを着け、素手で作業しないようにする。すすぎ水などが飛ばないようにし、マスクを洗った後は十分に手を洗う。

また、繊維を傷める可能性があるため、もみ洗いはしない。塩素系漂白剤を使うため、色柄が変色する可能性もあるという。

使い捨てマスクは、洗うことで性能が低下する。再利用は勧めないという。

経済産業省も、マスクの洗い方を動画（<https://www.youtube.com/watch?v=AKNNZR0740&feature=youtu.be>）で紹介している。